

■ロックマンXのエイリアとマリノがチチ改造痴漢アクメする話

レプリロイドの進化は進み、より人間に近い姿を持つようになった。
生殖パーツを装着することは当たり前となり、純粋な繁殖はできずとも性愛の快楽と悦びを知ることができるようになったのだが……
その反面、セクハラ、痴漢、レイプといった性犯罪に当たる行為も激増するという弊害があった――

◆エイリア編

イレギュラーハンターに勤める女レプリ、エイリア。出張先の仕事が終わりと、ハンター本部に電車で向かっているところだ。

(痴漢注意、か……変なイレギュラーも増えたものね)

車両内にある、痴漢防止のためののり広告。それを見てエイリアは溜息を漏らす。
以前から性愛に近い感情はレプリロイドに存在したが、それが性行為として形にできた途端、性犯罪は劇的に増えた。
ハンターはそれらもイレギュラーとして対処しなければならないが、それまで相手していたものと勝手が違い、エイリアとしては悩みの種であった。

(痴漢なんて、何が楽しいんだか……)

理解できない性癖に、不快感を抱きながら電車で揺られていた時。

がしっ！

「っ！」

ハードなデスクワークに耐えるためのクッションが詰まったエイリアの臀部。それを小さな手が驚掴みにした。
明らかな痴漢行為に、まさか自分が被害に遭うとは……そう考える余裕もなく、エイリアは痺れるような感覚に身悶えさせられる。

(?! 何、今の……?!♥)

痺れる感覚は、間違いなく快楽……性感だった。
成熟した女性としての思考回路を持つエイリアも性器パーツをちゃっかり購入・装着していたのだが、
そのパーツがバグでも起こしたのかというほど過剰に反応していた。
だが見知らぬ者にいきなり尻を揉まれ、感じるはずがない。強烈な快感に抱く疑問を、後ろの小柄な少年型レプリが答えた。

【驚いた？ 痴漢適合ウイルスを注入したよ。

ハンターのクセにマンコパーツ着けてるドスケベオペレーターなんだから痴漢されても文句ないよね♪

これで痴漢が愉しめるから、一緒に気持ち良くなろうね〜♪】

(痴漢ウイルス……♥ 最近イレギュラーの間で流行してる違法ウイルスのことね……♥ ちょっといいわ、ここで駆除すれば……っ♥)

周囲に聞こえないようメールで送信された少年の声。
それは自らイレギュラーと宣言したも同然のものであった。
最近流通しだした、性器パーツのセンサーを狂わせ強制的に発情させるウイルス。
少年はそれを使って痴漢するという悪質な犯罪を行っているのだ。
だが、それは好機でもある。エイリアの真後ろにいるのであれば、今ここで逮捕すればいい。
内心では感じながらも、訓練で学んだ逮捕術を使おうとしたが……それも少年には見透かされていた。

【捕まえようとしたらボクの身体が自動で自爆プログラムを起動させるよ】

(っ！)

【で、ウイルスを駆除するには痴漢行為に十五分以上イカずに耐え切らなきゃいけない。……大人しく痴漢されてね〜♪】

(な……何よそれ、バカバカしい！ あ♥ でも……本当だったら……このまま十五分耐えれば……こいつを捕まえられる……っ♥)

なんと少年は自動で起動する自爆装置を備えていた。
こんな至近距離で自爆すれば、エイリアも周囲の乗客も巻き込まれる。
ブラフの可能性も大いにあるが、もし真実であればあまりにも危険な事態だ。
更にウイルスの解除条件も知らされ、リスクを避けるならば痴漢を受けるしかない、というシチュエーションが出来上がってしまう。

(狂ってる……♥ けど……こいつの言ってること、本当みたい……♥)

エイリアが持つ情報解析能力を作動させ、一部だがウイルスや少年について知ることができた。
結果、メールの内容が真実であると分かり、エイリアは痴漢を受けざるを得ないことが判明した。
狂気の沙汰だが……逆に、耐えられればこの少年を逮捕できることもほぼ確定したということになる。

(痴漢したいがために、敢えて欠点を作ったんでしょうけど……そのふざけた思考プログラムを後悔させてあげるわ！)

センサーの強制発動で快感を与えられはしているが、理性的思考により抵抗は可能。
オペレーターとはいえ、ハンター活動のために強化されたA I とC P Uを持つエイリアであれば条件クリアは問題ないはず。
時間が来た瞬間、少年の手を握り上げる……強く決意するエイリアの尻を、また少年の手が揉み捏ねる。

もみつ♥

(あ♥ これくらい♥ 耐え♥ あ……………っ♥♥)

悪意ある少年に触れられ、揉まれただけ。だというのに、エイリアの尻はたちまち熱くなっていく。
耐衝撃用クッションが詰め込まれたエイリアの臀部はまさに爆尻と呼ぶに相応しいサイズで、
センサーによって感度が上がっているために体積に比例して性感が増している。
想像以上の快楽に、十五分どころか早々に絶頂感が込み上げていた。

(ダメよ♥ こんな痴漢イレギュラーなんかにはイカされるなんて♥ これ以上被害者を出さないためにも♥ 絶対に耐え)

ウイン……チキチキッ♥♥

(あ♥♥ プログラム♥♥ 書き換えられ♥♥ バグってっ♥♥)

がしいっ♥♥

「おほっ♥♥」

みるみる改変されるセンサーとプログラム。
チキチキと音を立てるほど高速で改造されてはエイリアの処理能力もまるで歯が立たず、
強く揉まれて車両内だというのに嬌声を漏らしてしまう。

【あれ、まだ一分も経ってなくない？ もうイクの？ 別にいいけど……イレギュラーハンターも大したことないんだね♪】

(こいつっ♥♥ でも……悔しいけど♥♥ もう……限界……っ♥♥)

逮捕すべきイレギュラーに、何もできずにイカされる。
屈辱を感じても吊革を掴み、尻を震えさせることしかできないエイリアは、
せめてもの抵抗に声だけは堪えようと唇を強く閉じて歯を食い縛った。

(痴漢イレギュラーなんかには……………イツ……♥♥)

「ッ♥♥♥ お!!♥♥♥ ……~~~~~ッッ!!♥♥♥」

絶頂し、ガクッ♥♥ ビクンッ♥♥ と痙攣する爆尻。
もっと蹂躪して欲しいとばかりに打ち震える牝肉が、新たなメールを受信した。

【今後も何事もなかったようにこの電車で通勤してボクに痴漢されること。
無視すれば優秀オペレーターのイキ顔と内部データが世界中に撒き散らされるからね♪】

◆マリノ編

金銭的な事情などでワクチンが得られず苦しむレプリのために盗みを働く義賊くノーレプリロイド・マリノ。
しかし今回は逆にワクチンデータが盗まれるという失態を晒してしまう。

ぎゅむっ♥♥ もみもみもみもみっ♥♥

「——っっ?!♥♥」

(っ?! 今の、まさか……)

すれ違いざまに痴漢されたと思った時にはワクチンデータを盗まれ、更にマリノの高度なセンサーやセキュリティを掻い潜ってウイルス——性感上昇のハッキングデータが侵入していた。マリノは盗みのみならず痴漢……淫技の方も超一流と自負しているのだが、にも関わらず見知らぬ少年型レプリにデータを盗まれ、軽く絶頂までさせられた。このままでは義賊としてもくノーとしてもプライドにかかわる。強制的に溢れ出る潤滑液で股間を濡らし、柔らかな尻肉を震わせながら少年の後を追ひ、満員電車の中に乗り込む。

痴漢適合ウイルスとも呼ばれるハッキングは絶大な効果を発揮する反面、十五分間、本気のオーガズムをしなければ自動で解除される。マリノは達したとはいえ小さな絶頂であり、ウイルス侵入とほぼ同時であったために、まだ絶頂したと判定されていない。十五分耐え切り、かつワクチンを盗み返す。義賊くノーとしての誇りを賭け、マリノは自慢の美尻を見せびらかすように立つと、吊革を掴んで少年を待つ。

(面白いじゃないの……十五分後には、無惨な痴漢イレギュラーの首を頂戴、ってね！)

——……
————……

「ッ!♡ ん♡ ん……!♡ ふううう……………ッ!!♡」

……十分後。
少年に痴漢されていたマリノは、全身を快楽で痙攣させていた。ウイルスの強さは想像以上で、人間のそれと変わらない美尻を刺激されるたび、センサーが異常反応して恐ろしいほどの快感を与えられる。少年が手を抜いていなければ間違いなく絶頂している、と言えるだけの快楽に、マリノは吊革を強く握り締めるしかない。

【どうしたの？ まだ全然本気出してないんだけど】

少年は電子メールで嘲笑すると、掌での愛撫をやめ、敢えて指先によるスローペースかつ微弱な刺激に切り替える。

(こんな、手抜きもいいとこの痴漢なんかは……この、アタシが……感じる、わけ……………ッッ!!♡♡)

しかしマリノの身体は完全に出来上がっており、ただ撫でられるだけで尻が**びくん♡**と震えてしまう。

もみっ♡ もみもみもみもみっ♡♡

「お♡♡ ほ…………♡♡」

(しかも♡♡ こいつら……二人組、なんて…………♡♡)

また、痴漢はもう一体の仲間がいた。二人揃ってマリノの装甲パーツの中に手を伸ばし、直接性器パーツに触れて刺激してくる。股間部を覆う装甲パーツは人間の下着のように薄く柔軟なもの。つまり、傍から見ればパンツ丸出しの格好。レプリとしては特に不自然なものでもないため、周囲から好奇の視線を向けられることはなかったが……痴漢被害に遭ったことで、マリノの中に羞恥心が生まれ、それが快楽を加速させる。

【そのパンツ、よく似合ってるよ♪】

(っっ♡♡)

皮肉ったメールが届いた途端、**ひくんっ♡**と牝肉が反応してしまう。その瞬間に女性器部を激しく掻き回され、別の手に尻肉を揉み回され、ついにマリノの官能がピークに達する。

「やめ♡♡ もう♡♡ これ以上はっ♡♡」

ぎゅむうっ♡ ぐちゅぐちゅぐちゅううっ♡♡

「お♡♡♡ お…………♡♡♡ —————っっ♡♡♡」

【あーあー、ついにイカされちゃったね♪ マン汁がはしたなく溢れまくってるよ♪】

(こ……こんな、ヤツに……♡♡♡ あたし……イカされ……っっ♡♡♡)

ワクチンも取り替えせず、淫技でも屈してしまったマリノ。
そのことをネタに脅され、その後も痴漢を受け続けることになる……

◆サイレント絶頂

【じゃ、今日もいっぱい愉しもうね〜♪】
「ッ!!♥♥ ツお!!♥♥ お!!♥♥ ……っほ……!!♥♥」
(またっ♥♥ アタシのおまんこっ♥♥ イカされ……♥♥)
【マリノさん、オマンコ弱すぎ♪ 流石イレギュラー擦れ擦れのアウトロー、それなりに遊んでるんだね♪】

後日。また痴漢に絶頂させられるマリノ。その隣にはエイリアもあり、こちらは大きな尻を揉みくちやにされている。
「はっ!!♥♥ あ!!♥♥ あ……~~~~っ!!♥♥」
(私っ♥♥ お尻だけで……イレギュラーにイカされてるう♥♥)
【こっちも ハンター業務で溜まっていたのかな？ 声出しちゃダメだよ♪】

新型の若いレプリにクスクス嗤われながらイカされる熟練の女レプリたち。
これ以上は痴漢行為に支障が出るほど声が出ているため、痴漢少年たちが更に彼女らの身体を改造させる。

【声上げられないって辛い？ 声がメールになるように改造したげるね】
「きゃ♥♥ ｷｷｷｷｷｷ♥♥」
(やめっ♥♥ あああああ♥♥)
(データっ♥♥ 書き換えられるううっ♥♥)

触れられただけで声帯機能が変化し、その途端に二人は喘ぎは我慢できるようになった。
代わりに発声しようとした言葉が固定回線の電子メールとしてエイリア、マリノ、痴漢少年たちにだけ聞こえるようにされる。

【二人に痴漢プレイ専用のメール機能つけてあげたよ♪ これで遠慮なく喘げるね♪】
(なっ……そんなことが♥♥)
(こいつら、一体何者なんだよ……♥♥)

恐怖しつつ、周囲に声を聞かれる心配がなくなったことに安堵してしまう牝二体。
これで遠慮なく喘げる……気の緩んだ瞬間に牝急所が揉まれ、無音の嬌声を発する。

『っ……♥♥ ほ、本当に、言語がメール化されてるわ……あ♥♥』
『エイリア、むやみに喋るんじゃ……っ♥♥』
【精神が弱まると、言おうとしなくても思っただけで送信されるようになってるから気を付けてね♪】

気が緩んでいれば、『声』でなくとも発信されてしまう。つまり回路の中だけの思考も流出してしまう。
想像を超えたクラッキングに、二人は被虐欲を煽られて更に発情する。

(マズい……♥♥ イキたい……声を出しちみたい……♥♥ 声を出していいってだけで、何でこんなに♥♥)

電車内ということで我慢していた牝の声。
それが遠慮なく出せるようになり、しかも『精神が弱められてさえいれば』思考の中まで晒される。
建前が解放感を押し上げ、強固なはずの精神制御機能がチキチキと音を立てて歪んでいく。

『や……♥♥ やりなよ……っ♥♥』

バグと願望に負けたマリノ。遂に両脚を開け、痴漢に秘部を差し出した。

『ど……どうせ、無理矢理やるんだろ……♥ 好きにしまよ、この手マン中毒のイレギュラーがっ♥♥』
じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽじゅぽおおっ!!
『んおおおおおおおおおおおお!!♥♥ イッ……ク!!!♥♥ イク!!!♥♥ ウイルスと痴漢だけでっ!!!♥♥
手マンだけでイカされるうううううううううう!!!♥♥』

[illegible]

弱り切った力で精一杯に吊革を握り締め、弾けたように全身を仰け反らせる。
大きく見開かれた双眸は白目を剥き、あらゆる孔から熱きった冷却水を噴き、股を開いて失神する牝レプリ。
意識を失っても体内メモリが自動的に快楽余韻を記録し、何度も何度も痙攣を重ね——
——数時間が経過した頃、ようやく終点が見えてきた頃、二人の思考プログラムは快楽に焼き尽くされているのだった……